

伝える

促す

動く

第6回 最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会 令和元年5月29日開催

減災対策に向けて、取組みの継続・実施を確認

●概要

- 大規模水害に備えた3つの目標『**伝える**・**促す**・**動く**』の取組状況及び今後の取組内容(国、県)について説明・確認を行いました。
- 気象台における**地域防災支援の取組**についての説明を行いました。(山形地方気象台)
- 危機管理型水位計**について、整備状況・活用方法の説明を行いました。(国・県)



減災対策協議会開催状況

●協議会構成



新庄市長



大石田町長



金山町長 (代理)



最上町長 (代理)



尾花沢市長 (代理)



舟形町長 (代理)



真室川町長 (代理)



大蔵村長 (代理)



鮭川村長



戸沢村長

新庄市長
尾花沢市長 (代理)
大石田町長
金山町長 (代理)
最上町長 (代理)

舟形町長 (代理)
真室川町長 (代理)
大蔵村長 (代理)
鮭川村長
戸沢村長

気象庁 山形地方気象台長
山形県 防災くらし安心部 防災危機管理課長
県土整備部 河川課長
村山総合支庁 建設部長 (代理)
最上総合支庁 建設部長
国土交通省 新庄河川事務所長

●主な意見等

- ・避難については、行政サービスから行政サポートへ変わる。**住民に対して、情報をいっどう伝えるかの判断が、行政として重要だ。**
- ・**自主防災組織が重要。** 昨年の洪水では、自主防災組織がしっかりしている所の避難率が高かった。
- ・昨年の洪水で、**一次避難所から二次避難する場面**あった。**移動手段に苦労**した。事前に考えておく必要性を感じた。
- ・直轄河川・県管理河川の**情報共有等の連携も重要**である。